第 46 回　終戦前の松江市

今年は、戦後 70 年の節目の年にあたります。

昭和 20 年 3 月 10 日の東京大空襲、19 日の呉の空襲、3 月から 6 月にかけての沖縄戦、日本各地での空襲、8 月 6 日の広島への原子爆弾投下、続く 9 日の長崎への原子爆弾投下を経て、8 月 15 日に日本はポツダム宣言を受諾し、終戦となりました。

本土空襲が激化する中で、松江市ではどのような備えをしていたのでしょうか。

当時の新聞に、当時の様子が描かれていました。

建物疎開も必要

指導に頼らず各自が決行

の市江松
討検空防

取採の脂松生

大人も學ぶ巧さ

横田校のヨイ子たち

昭和 20 年 7 月 5 日島根新聞

「建物疎開も必要指導に頼らず各自が決行松江市の防空検討

中国地区でまだ敵機の空襲を見ない地域は島根鳥取両県のみの郷土空襲はいよいよ必至となり県民はそれぞれ職場で敢闘また敵機来らば来たれで防空態勢を強化せねばならぬとき、県下重要都市の一たる松江市における防空態勢は県下市町村の末尾にあると云ふ誠に芳しからぬ現状だ、敵機来襲の場合これで完全に松江市を防護出来るか、遺憾ながらこの始末では市が焼土と化すことも覚悟せねばなるまい、いまこそ松江六区市民は軍官民一致で防空強化を期すべき緊急事態に臨んでゐるが松江市防空本部指導元締たる山本松江署長にその防空態勢の実態とかくあるべき備へとについて説いて貰はう

問：松江市の防空施設は市の指導者や関係方面の人が甚だ不熱心の様に見えるが

答：県下で一番大きい都市であるため指導も届かない点があるが、まだ一回も大空襲を経験せない関係もあつてまだまだ十分とは云へぬ、また防空強化は他人事でなく各自が真剣にやらねばならぬ

問：現在市内の防空壕、待避所は万一の際完全に役割を果たすやうな設備が少い、完全な横穴壕を増強すべきではないか

答：目下各校下別に町常会を開いて一町内毎に一ヶ所を早急増強する考だ

問：松江市が万一災害に遭つた場合老人、子供、病人等の待避対策は

答：市内は相当柵、河川があるため筏を各地に整備して一時避難させることもよいと思ふ

問：空襲時における食糧対策は

答：空襲があつても五日間位は全市民に配給する様それぞれ関係方面で確保が出来てゐる

問：家庭、その他関係方面における重要物資疎開は第一次で完了したが、まだ不十分ではないか

答：これは各家庭その他各自が夫々適当に決行せねばならぬ

問：最近暑いためだが、非常に防空服装が乱れ、特に女性は半袖、スカウトなどの服装を沢山見受けるが、緊張が、欠けてゐるではないか

答：同感だ、防空服装は当局から注意がなくとも各自が完全な防空活動できる服装を整へ特に女性はよく注意せねばならぬ

問：燈火管制や防空壕、待避所に相当不十分な箇所があるが、これらは町内会、隣保班で輪番制で看守させては

答：最近市内の燈火管制は甚だ不十分で、特に警報発令下における燈火については今後厳重取締る、また待避所、防空壕の水溜は毎日当番制で汲取ればよい

問：市内の工場防空は現在の程度で十分か

答：工場防空もまだまだ十分ではないから、工場や関係方面では適切な対策を樹て機械等は特に防護して生産力を低下せぬ様に努めねばならぬ

問：市内における建物疎開は

答：目下県当局で調査中だがある程度までは建物疎開を実施する」

当時の新聞によると、松江市の防空態勢は県下で最も低く、防空壕の少なさや待避所などの設備の少なさが問題だったようです。また、松江市は空襲の経験がないことから、市民が防空に対応するための服装や燈火管制などが徹底していなかった様子が新聞紙上に書かれています。

7月24日から28日にかけて、ついに山陰でも敵機による空襲がありました。米子の大山口列車空襲事件や玉湯村の海軍湯町基地、浜田空襲などがそれにあたりますが、島根新聞昭和20年7月27日付けの新聞には「敵機に避けよ無用な見物は厳禁」との見出しで、以下のような記事が掲載されています。

「（略）二十五日の敵機盲撃で死傷者若干名を出したが曳防空陣の敢闘によつて地上における被害は全然なかつた、しかしなかには上空の敵機を見物したり待避信号が発せられても、待避せず敵機を眺めてゐたゝめ負傷した不心得者もあつたが、これをよい戦訓に今後はこんな迂闊なことのない様注意するとともに一層防空強化をはかり、国民学校児童等の登校、帰宅中の行動についても学校当局や家庭で十分警戒する必要がある、（略）」

25日の空襲で、敵機を見物していた市民がいたことを伝えています。

空襲に備え、松江市では7月9日から建物疎開が行われていましたが、この空襲を受けて、県では都市防衛と建物利用のため、第二次建物疎開断行の決定をします。

第二次建物疎開の期間には学校も休みになり、学童も手伝ったということです。7月末の空襲で、市民の防空意識が一気に高まったと言えるでしょう。

第二次建物疎開は、当初8月1日から20日までの予定でしたが、玉音放送後の1時に打ち切りとなります。

戦禍を免れた松江市内ですが、建物疎開で多くの家を失います。市は、建物疎開跡地に新たな道路を整備し、現在の松江の姿になっていくのです。

（8月1日：史料編纂室／高橋真千子）